

---

## 2. 研究会「物流戦略研究会」

### 物流戦略研究会の概要と今後の方向

(財)和歌山社会経済研究所

研究部長 梶 谷 昭 治

#### 1. はじめに

和歌山地域経済研究機構は、H11～H13 年度、すなわち、20 世紀 - ミレニアム - 21 世紀にかかる記念すべき 3 年間の中心研究テーマとして「南近畿全般の総合物流戦略」を選び、この研究組織として「物流戦略研究会」を立ち上げ、昨年度下期から研究に着手、本 5 月には第 1 回一泊研究会(第 5 回研究会)を開催する運びとなっている。今後、行政・民間企業などとの連携体制も整備強化し、本格展開を図る予定。今回は、本物流戦略研究会の概要と今後の方向について報告するものである。

#### 2. 背景と目的

和歌山を中心とした南近畿地域は、太平洋新国土軸の中核を形成するとともに、大阪湾ベイフロンティア構想のゲートウェイに位置し、重要拠点を占める。特に、第二阪和道・紀淡連絡道路・京奈和自動車道・近畿自動車道の高規格道路が 2010 年～2020 年にかけて順次完成して行くと、本地域は東西・南北に結ばれ、陸上輸送の結節点となる。さらに、現在進められている関西国際空港・和歌山下津港の増強整備計画も、2010 年～2020 年にかけて完成の予定である。この様に本地域は、世界にも開かれた陸・海・空の結節点となり、南近畿のみならず西日本さらには世界各国と超広域的に人・物・金・情報さらには文化の一大交流拠点を形成する大きな可能性を秘めている。

この一大交流拠点形成を実現するためには、人・物・金などそれぞれについて戦略的な施策を必要とするが、本研究会はベースとなる「物」すなわち「物流拠点形成」についての基本戦略、本地域の具体的な活性化施策を研究・提言する。

---

### 3. 研究テーマ：この項で言う将来は「2010年および2020年」とする

- (1) 現状の陸・海・空の各物流実態と将来の推計
- (2) 将来想定される陸・海・空の交通ネットワークおよび物流ネットワークと問題点。  
計画されているもの以外に、必要な物流基盤  
(ex 和歌山港 高速道路間の高規格道路)
- (3) 和歌山下津港の位置づけ(他港との競争力)と将来構想
- (4) 近畿全域の物流拠点の調査と和歌山地区への創設の可能性(創設のための条件)および具体的な創設地 など
- (5) その他

### 4. 研究体制

研究会座長 小田 章	和歌山大学	今井武久・佐々木壮太郎・大津正和・橋本貴子
	和歌山商工会議所	坂口慶直・西岡安雄・上田賢司・金谷好泰
	社会経済研究所	鈴木 健・梶谷昭治・赤坂武彦
	行政関係	県総合交通政策課 etc・市交通政策室 etc
	民間企業	日本通運 etc 物流・流通関係企業

### 5. 研究状況と今後の方向

現状～4月、4回の研究会では、メンバーリング・物流に関するそれぞれの意見交換・基本的な進め方・鳥取県における港湾物流の強化事例研究・民間関連企業からの問題点聴取・行政の今後の方針聴取などを実施してきた。

今回は、三和総研の物流専門研究員より和歌山地区の実物流実態量をベースにした物流分析方法・問題点の把握方法・解決の施策など基本手法の一泊研究会を実施する。

その後、具体的な研究項目と研究担当・スケジュールを調整、決定し、計画的かつ精力的に研究を進めてゆくことにしている。